

開催年月日 2007年7月22日（日） 12：00～15：20

会議の名称 第3回 予防接種委員会

開催場所 ホテル新大阪 東ロステーションビル 401号室

出席者 永井崇雄、落合 仁、田原卓浩、宮崎千明、横田俊一郎、吉川哲史、藤岡雅司

会 計

支出 27,930円（会議室使用料 13,230円+昼食代 14,700円）

収入 10,500円（1,500円×7名分）

差引 17,430円

【議題】

1 新委員自己紹介

落合 仁

吉川哲史（次回役員会で報告）

2 役員会から（横田、藤岡）

会議費程度なら総務部の予算を使うことができる。

次年度からは活動費を計上する方が望ましい。

役員会への報告は藤岡が行なう。

3 MRワクチン実施状況調査（藤岡）

協力自治体への報告が遅い。次回調査への協力が得られなくなることもあるので、同様のことのないよう注意。

7月中に修正して、完成させること。

共著者名について再度本人に確認すること。

早急に自治体（都道府県、政令指定都市）に報告書を送付する。

できれば新聞社等マスコミへも要旨程度は送付する。

厚労省ワクチン研究班（平山先生→神谷先生に交代）にも提出する。

第11回日本ワクチン学会へ演題を提出する。

今後も同様の調査を行うと思われるので、久留米大医療センターとの連携を確立すること。

4 「予防接種に関する検討会」について（宮崎）

関東地方の成人麻疹流行を受けて、6月から急遽再開された。

ようやく厚労省も麻疹排除を目指して動き出す模様。

岡部信彦先生の作成した「たたき台」を基に議論が進められている。

95%以上の接種率を維持して、国内でのウイルス伝播を阻止する。

2学年ずつ5年間の予防接種法でのMRのキャッチアップ接種となりそうな様子。
国の制度として麻疹の全数報告も予定されている。
技術的な細かい点についてはこれから決められていくところ。

- 5 「ワクチン産業ビジョン推進委員会」について（宮崎）
世界で使用されているワクチンの使用促進と国内のワクチン産業の活性化が目的の常設委員会。
第1回は平成19年3月。年2、3回程度の開催を予定。
座長は倉田毅先生、顧問に神谷齊先生。
小児と思春期のワクチンについてのワーキンググループで具体的議論を非公開で行なう予定。
現在のところ日本版ACIPは無理で、本委員会はその折衷案とも言える。
- 6 「DPTワクチン接種間隔について」「0歳のMRワクチン接種児の取扱について」（宮崎）
本通知でとりあえず静観する。
ワクチン添付文書又は予防接種実施規則の変更が必要か？
- 7 日本脳炎ワクチン要望書について（永井）
現在までのところ、日本小児科学会は経過措置の要望を見送っている。
国は現在まで経過措置を認めていない（可能性がないわけではない）。
ワクチン不足で「定期接種」を希望しても接種できない現実を国に認めさせるには。
外来小児科学会会員に向けて日本脳炎定期接種の現状を知らせる緊急アピールを年次集会に出す。
- 8 「乳児へのタミフル使用に関する調査」結果の取扱いについて（田原）
現在のところ、論文発表できない状況にある。
- 9 その他
予診票における「健康被害の補償の説明」の項目について
神経疾患児へのワクチンガイドラインについて
麻疹全数把握制度の状況調査について（落合委員が県レベルでの調査を行う）
- 10 次回開催日について
できるだけ年2回の開催を目指す。メーリングリストで最終決定する。